

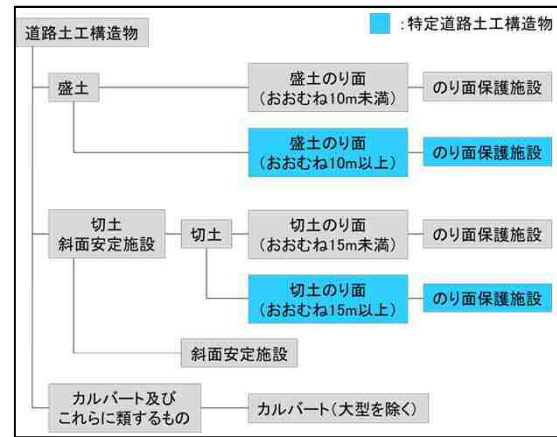
1. 特定道路土工構造とは

道路は、アスファルト舗装や砕石路盤、路面排水施設、縁石等の道路本体と道路本体以外の切土のり面保護施設や擁壁等の道路土工構造により構成しています。

道路土工構造のうち主要道路や緊急輸送道路に構築された高さが15m以上の長大切土と高さが10m以上の高盛土を保護する「のり枠」、「擁壁」、「落石防護柵」等の総称を、**特定道路土工構造**といいます。



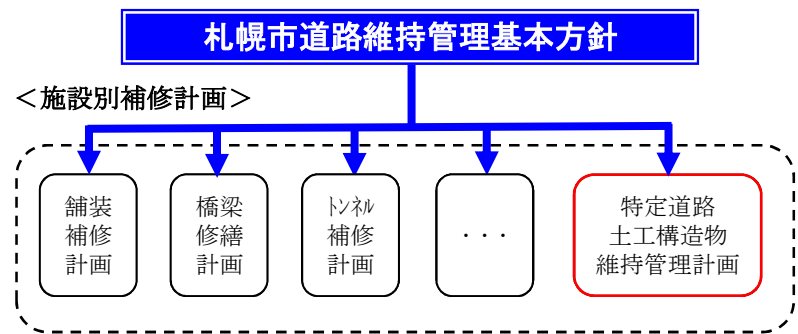
＜特定道路土工構造の構成＞



＜特定道路土工構造の定義＞

2. 計画の位置付け

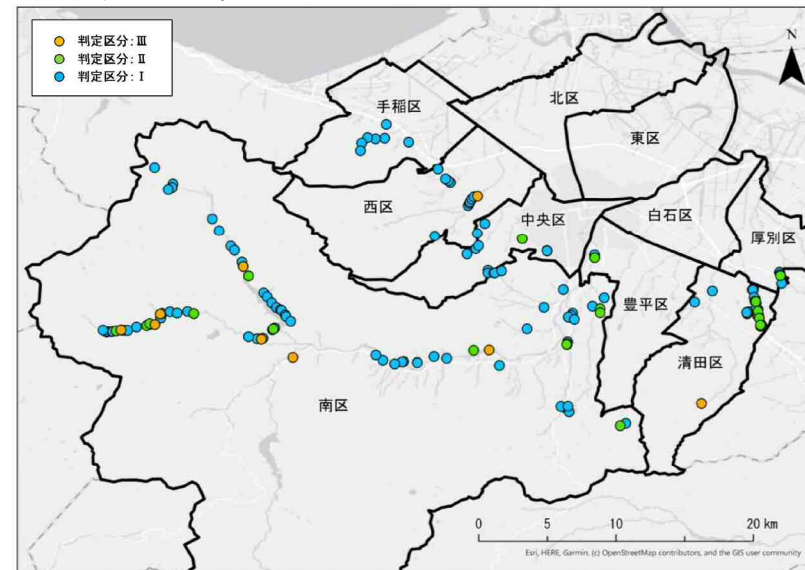
札幌市では、平成22年3月に「札幌市道路維持管理基本方針」を策定し、長期的な視点に立って、ライフサイクルコストの最小化や事業の平準化など、計画的・効率的な維持管理の実現に取り組んでいます。本計画では、札幌市が管理する特定道路土工構造について、基本方針に基づき計画的かつ効率的な維持管理を行っていきます



3. 特定道路土工構造の現状

札幌市では、平成30年度に本市が管理する道路土工構造から特定道路土工構造を160箇所選定し、概略点検により現状把握と健全性の判定を行いました。

札幌市の特定道路土工構造のうち約半数が南区に位置しています。切土・盛土の割合は概ね半数となっており、北区・東区・白石区には特定道路土工構造はありません。健全性は、IV判定の箇所はなく、早期措置段階のIII判定の箇所が9箇所（6%）、経過観察段階のII判定の箇所が19箇所（12%）存在します。



＜特定道路土工構造の分布＞

判定区分	判定内容
I 健全	変状はない、もしくは変状があっても対策が必要ない場合（道路の機能に支障が生じていない状態）
II 経過観察段階	変状が確認され、変状の進行度合いの観察が一定期間必要な場合（道路の機能に支障が生じていないが、別途、詳細な調査や定期的な観察などの措置が望ましい状態）
III 早期措置段階	変状が確認され、かつ次回点検までにさらに進行すると想定されることから構造物の崩壊が予想されるため、できるだけ速やかに措置を講ずることが望ましい場合（道路の機能に支障は生じていないが、次回点検までに支障が生じる可能性があり、できるだけ速やかに措置を講ずることが望ましい状態）
IV 緊急措置段階	変状が著しく、大規模な崩壊に繋がるおそれがあると判断され、緊急的な措置が必要な場合（道路の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態）



＜特定道路土工構造の判定区分別割合＞

4. 管理目標の設定

土工構造の劣化シナリオの不確実性を踏まえつつ、設計当初の性能を維持できるよう、早期措置・予防保全型の維持管理を基本とします。

＜特定道路土工構造の管理目標＞

健全性の判定区分	I (健全)	II (経過観察段階)	III (早期措置段階)	IV (緊急措置段階)
土工構造を主体 (149箇所)	対策不要	経過観察	対策実施 (早期措置)	対策実施 (緊急対策)
コンクリート構造物主体 (11箇所)	対策不要	対策実施を検討 (予防保全)	対策実施 (早期措置)	対策実施 (緊急対策)

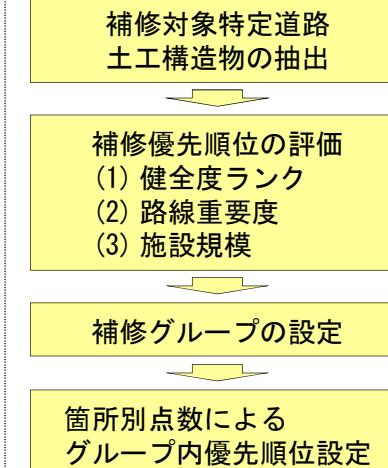


5. 短期維持管理計画

・優先順位の考え方

管理目標から補修が必要となる構造物を抽出し、補修優先順位の評価によって補修グループを設定します。さらにグループ内で箇所毎に点数付けをして補修優先順位を設定します。

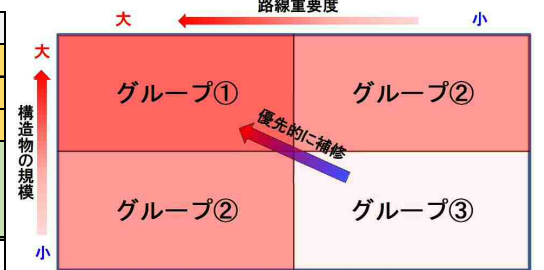
＜優先順位設定手順＞



＜補修グループ分類結果＞

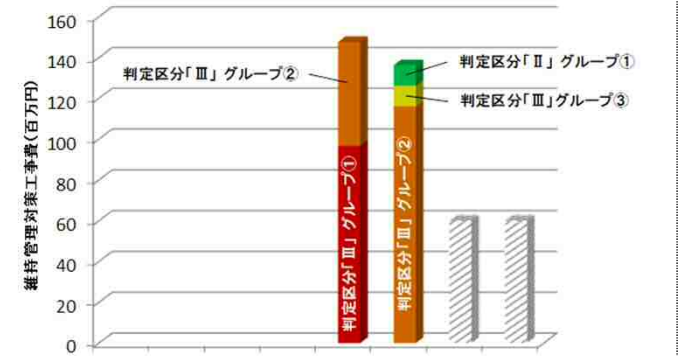
健全性の判定区分	補修グループ	箇所数
III (早期措置)	①	2箇所
	②	5箇所
	③	1箇所
II (経過観察)	①	2箇所 (コンクリート主体=予防保全対策検討対象)
補修対象箇所数		10箇所

＜補修グループの考え方＞



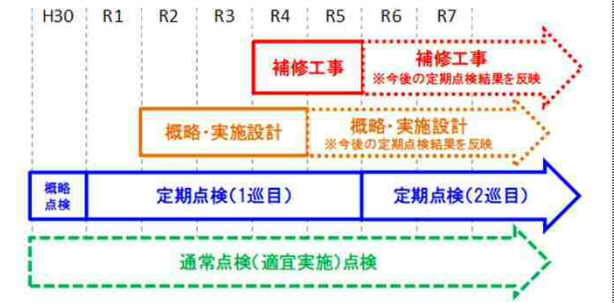
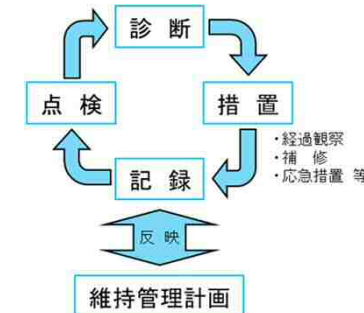
・補修年次計画

補修優先順位の高い構造物より補修年次計画を立案し、次回定期点検を行うまでに、補修が必要な箇所のスケジュールを立案します。また、最新の点検結果により、補修計画は随時見直していきます。



6. 中長期の取り組み

早期措置・予防保全型の維持管理により、メンテナンスサイクル（点検・診断・措置・記録）を適切に実施していきます。



7. 計画の効果

〇5年に1回を目安とした定期点検を軸に特定道路土工構造の状態を把握し、継続的に健全性の診断を実施することにより適切な時期に適切な対策を行います。これにより変状が小規模なうちに補修が可能となるため費用の縮減につながります。また、人命や財産の喪失につながる崩壊や大規模な変状を未然に防ぎ、道路利用者の安全・安心を確保します。

〇点検、診断、補修に最新の知見と技術を積極的に活用することで、効率的、効果的な維持管理を行っていきます。